

全国初の「バースデーランド」

森に“心のふるさと”を

高森吉山麓 原 ブナ苗木50本を植樹

北秋田市森吉の森吉山麓高原に4日、全国初の「バースデーランド」が誕生した。山村地区と都市地区の森林、林業を通じた交流活動を展開している東京のNPO法人MORIMORIネットワーク(代表理事・山縣睦子)が国土緑化推進機構の助成を得て実施した。山縣代表理事、メディアパソンナリティーで副代表理事の芳村真理さんら同NPO関係者、県、同機構、市、協力団体のNPO法人冒険の鍵クワン、関連ツアー参加者ら約60人が高原の県有地にブナの苗木50本を植樹した。

一本一本に名前と誕生日

一本の木とつながることで、心の森にふるさとを持つという趣旨。森林環境保全の一環でもある。苗木に1本ずつ植樹した人の名前と誕生日を記した木柱を建て「バースデーランド」とした。植樹場所は青少年野外活動基地周辺の県有地約2畝のエリア。水と緑の森づくり税を導入している本県が、N



ブナの苗木を植樹する山縣代表理事ら(北秋田市森吉山麓高原)



テレレ番組の司会などで活躍した芳村さんも植樹

POの趣旨に賛同してスペースを提供した。現場には協力団体の古河林業が無償で提供した高さ15メートル、樹齢約100年のブナの樹木をシンボルツリーとして事前に設置。県から

はマスケットのスキッチが、MORIMORI I関連ツアーで関東方面から訪れた約30人の参加者を歓迎。雑木で特設した歓迎アーチをくぐって会場入りしたほか、地場の山菜料理にも舌鼓を打った。

津谷永光市長は「第1号の地に森吉山麓高原を選んでいただいたことを光栄に思う。苗木が育つのを見守りながら、皆さんとのきずなを深めていきたい」とあいさつ。

山縣代表理事は「ま

さには山紫水明の地という印象を強く受けた」と称賛。芳村副代表理事も「昨日は石森外輪山からブナ原生林をながめ、この地域一帯の自然環境のすばらしさに感動した」と述べた。

植樹の最初の1本は、大館北秋田森林組合環境対策室長の渡辺俊一さん(54)が植樹指導を兼ねて行った。渡辺さんの初孫が同日午前0時過ぎに誕生したことを聞いたNPO側が、バースデーラン

ドにちなんで配慮した。渡辺さんは「記念になる」と感謝。

東京都から参加した女性(54)は「勤務先が銀座にあるが、その街路樹とはまったく違ふブナの緑にふれることができた」と感想を述べた。

NPOは森吉山麓高原を出発点に、全国で「バースデーランド」を展開していく方針。一行は5日、バースデーランド周辺で山菜採りを楽しんだあと帰京する。

